

令和6年度学校自己評価システムシート (県立不動岡高等学校)

目指す学校像	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成 科学教育と国際理解教育の拠点校として地域文化への貢献
--------	---

重点目標	1 教育活動及び学習活動の工夫・改善を図り、「これからの時代に求められる力」を養成する。 2 学力を向上させるとともに高い志を育み、第一志望校への進学を実現する。 3 「質実剛健」「文武両道」「不撓不屈」[進取の気風]を日々実践する生徒を育成する。 4 さまざまな機会を通じて「不動岡高校ファン」を増やす。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 3 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 ・令和6年度より、全学年の生徒がiPadを使用できる環境が整い、1人1台のタブレット端末の活用が日常化している。 ・外国語科の普通科への統合と新教育課程の全校実施が完了、探究活動は、昨年度より三菱みらい育成財団からの助成を受けている。 【課題】 ・タブレット端末等ICTを有効に活用し、教育のDX化に対応しつつ生徒の主体性を伸ばす授業改善を推進する。 ・新教育課程における探究的な学習活動、及び科学教育と国際理解教育の一層の充実を図り、教科指導との相乗効果を生みながら主体的・対話的で深い学びを深化させる。	1 「教育のDX化」の特性を生かした文理横断的・探究的な学びの展開と生徒の主体性を伸ばす授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 文理横断的で探究的な学びを推進するための「DXハイスクール事業」(文科省指定事業)による校内のDX化推進 ICTを活用した主体的な学びを促す授業改善・授業力向上の取組 	<ul style="list-style-type: none"> DXハイスクール事業による校内のDX環境の整備状況 ICTの特性を生かした「主体的・対話的な学び」を促す授業の実施状況 生徒を対象とした授業アンケートにおける「主体性」「学習意欲」「授業への取組み」「授業の理解度」の状況 	事業予算を計画通り執行してDX環境を整備し授業改善を推進した。 ・最新のオフィスデザイン等を参考に情報学習室等をリニューアル ・ICT活用による協働的学びの公開研究授業や視察受入を5回実施 ・授業アンケートでは主体性3.42/学習意欲3.51/集中度3.69/iPad活用3.50/授業満足度3.60(4点満点)	A
		2 新教育課程における探究活動と科学教育・国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「未来探究」「リベラルアーツ」等新教育課程に位置付けられた本校独自の探究活動の充実 これまでに培った外国語科、SSH、SGHの知見と経験を生かした、科学教育と国際理解教育等の充実による探究的な学習活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程における探究的な学習活動の実施状況、生徒の参加状況及び成果発表の状況 校外のリソースを生かした探究活動やグローバルな学習活動等への生徒の参加状況 	探究活動の体系的かつ積極的な取組が評価され三菱みらい育成財団「みらい育成アワード」東日本グランプリを受賞した。 ・文理融合の3年生新科目「リベラルアーツ」を学年所属教員全員で担当して実施、1・2年生は10以上の班が校外で「未来探究」の成果を発表 ・地学野外実習、ふくしま学宿、海外研修(豪州/マレーシア)、国内留学プログラム、理研訪問にのべ290名参加	A
2	【現状】 ・国公立大学の合格者が継続的に100名を超えるようになった。最難関国立私立大を志望する生徒や海外を志向する生徒もおり、個々の生徒の進路希望に合わせて丁寧な進路指導を行う必要がある。 【課題】 ・高い志を育て、将来を見据えた進路選択に資するキャリア教育を充実させる。 ・難関国私立大学志望者に対する組織的な指導・支援体制を確立する。 ・第一志望を貫き実現させる学習指導と進路指導を一層充実させる。	1 生徒の将来を見据え幅広い教科科目を学習させ、目標達成のための計画的な進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からの生徒の将来を見据えた計画的な進路指導と保護者との情報共有 進路実現のため、高い目標を持ち続け自ら計画的に取り組む学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストにおける6教科7科目等国公立大学型の受験者数 進路希望実現に向けた家庭等における学習習慣の確立状況 「進路だより」等の進路情報の発信状況 	進路情報の適時提供や励ましを中心に計画的に進路指導を行った。 ・共通テスト国公立大学型受験者数224名(3年次352名中) ・学習状況調査を定期実施、1・2年生の学習時間は増加傾向 ・各学年で進路通信(電子版)を発行、生徒の学習好事例等を共有	A
		2 高い志を育み実現する進路指導の充実と個々の志望に応える学年・教科・分掌の連携による支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 入試問題分析等に基づく難関国私立大学志望者への指導・支援の充実 希望者に対する授業外での指導体制の充実 高い志を育み、キャリア意識の涵養に資する取組の推進 進路等に不安を持つ生徒や保護者に対するサポート体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 入試結果や入試問題の分析、それらに対応する指導法の研究状況 授業以外での進路指導の実施状況と生徒の参加状況 外部講師や卒業生等による講演会等の進路行事の実施状況 学年、分掌、外部機関等と連携した教育相談活動の実施状況 	高い志を育て堅持させる取組を多面的に実施した。 ・冊子「入試問題分析」のクラス配布に加え校内専用閲覧サイト開設 ・3年生夏期講習にのべ2000名参加 ・グローバルに活躍する卒業生によるキャリア講演会を実施 ・各学年で個別面談4回、外部模試分析会等12回実施	B
3	【現状】 ・コロナ禍後において学校祭等伝統ある学校行事を従来に近い形で実施できたが、より安全かつ組織的な運営方法を模索する必要がある。 ・公共空間におけるマナーは向上しつつあるが、SNSの適切な使用等には課題がある。 【課題】 ・感染症や熱中症等のリスクにも適切に対応しつつ、生徒自ら主体的に企画運営する本校の特色ある行事の一層の充実を図る。 ・生徒が地域等との繋がりを実感できる機会を積極的に活用し、責任ある振る舞いができるよう自己指導能力を育成する。	1 伝統ある学校行事の安全かつ計画的な実施を通じた生徒の主体性や協働する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心とした安全かつ計画的な企画運営による、生徒主体の伝統的な学校行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭等本校の特色ある行事の確実な実施状況 学校行事における運営方法や内容の工夫・改善の状況 	生徒の主体性を重視しつつ内容面でも充実した学校行事を実施した。 ・学校祭(体育祭/文化祭)は内容の工夫と準備期間短縮による効率化を図りつつ約8千人の来場者を記録 ・コロナ禍後初の海外修学旅行(台湾)を無事挙行	A
		2 「品格あるリーダー」としての自己指導能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを含めた公共空間での振舞いについての計画的かつ継続的な指導 社会との関わりを通じてマナーや自己の責任ある振る舞いについて生徒自ら考える機会の設定 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの適切利用等、生徒指導に関する意識啓発活動を通じた指導状況 清掃への取組と日常的な施設の利用状況 地域等との協働による啓発活動への参画状況 	「品格あるリーダー」としての地域等からの信頼は高まりつつある。 ・生徒指導部と生徒会による指導・呼びかけによりマナーへの苦情等は減少傾向 ・施設/設備面では日常的な清掃等により清潔・整然を維持 ・各委員会・部活動等による交通安全、美化等の地域活動を実施	B
4	【現状】 ・学校HPや学校説明会等を通じて本校の教育活動について積極的な情報発信がされている。 ・伝統ある学びの拠点として、地域から大きな期待を寄せられている。 【課題】 ・中学生や保護者等に対する学校HPや多様なメディアを活用した戦略的な広報活動 ・本校の人的物的リソースを生かした地域文化へのさらなる貢献	1 多様なメディアを効果的に活用した中学生や保護者・地域等に対する本校の魅力発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPのデザイン改良 ICTを活用した分掌・学年・部活動による積極的な情報発信の継続 本校の特色や魅力を発信する本校内外での広報活動の積極的な展開 	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPのデザイン等改善状況及び閲覧数の変化 複数メディアを活用した情報発信の取組状況 学校説明会ほか各種広報活動の実施状況 	広報強化に取り組み、保護者等の学校理解や生徒募集状況が改善した。 ・学校HPのデザイン・内容の充実を図り閲覧数が上昇 ・公式Instagramを開設し約3300のフォロワー数を獲得 ・対面の学校説明会等を9回開催	A
		2 本校の教育活動の成果を地域等に還元する活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 地域における科学教育・国際理解教育、スポーツ等の「学びの拠点」としての活動の積極的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校等との交流事業、サイエンス教室、生徒研究発表会等の実施 一般向け公開講座(地学)開催、サイエンス教室に小学生等約250名参加、近隣小中学校にて部活動や探究活動を通じた交流を実施 	地域の拠点校として期待される活動を積極的に展開した。 ・一般向け公開講座(地学)開催、サイエンス教室に小学生等約250名参加、近隣小中学校にて部活動や探究活動を通じた交流を実施	A

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和7年2月17日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<ul style="list-style-type: none"> 先進的なICT環境を効果的に活用した教育活動が展開されている。「考える力」がつくICT活用も検討してほしい。 AIの校務・教育活動への活用についてもその効果と課題を見据えて検討を進めてもらいたい。 ICTを活用した海外との交流等も期待したい。 JICA、大学、社会人の方など校外のリソースを生かしたフィールドワークを積極的にを行い探究活動で大きな成果を上げている。学びに向き合う心構えといった「マインドセット」を生徒と教員とで共有し不動岡らしい探究の軸を確立してもらいたい。 進路指導は着実な成果を上げている。高い志を持たせる丁寧な指導と進路結果を大切にしつつ、社会に貢献する姿勢もしっかり育ててほしい。 保護者アンケートでは「職業について学ぶ指導」や「自らの生き方を考えさせる指導」についての関心が窺える。JICAの出前講座等の話はこれらに役立つと思われる。 緒方貞子パネル展やグローバルに活躍する方々の講演会等を通じてキャリア教育を実践している。自らの生き方を考えさせる指導を今後も充実させてほしい。 行事や地域活動を通じて生徒同士や教員や地域の方々との間で心の交流が持っている。様々な活動に生徒が主体的に取り組む中で、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育てていくことが重要である。 周りを和やかにするリーダーになりたい。一方で、不動岡生はまだ自己主張が少ないと感じる。自分たちで考えて積極的に行動に移りたい。 探究や広報の活動を通じて地域と多面的に関わる中で、開かれた学校づくりが推進されている。行政セクターなど高校生との連携に対するニーズは高まっており、多様な取組を今後も期待している。 地域に新たに住まう方々の間では本校の認知度は必ずしも高くない。不動岡高校に馴染みのない方々にも積極的にアピールしていきたい。 		